

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

一日の始まりは、天気まつわる会話が
多い。「急に暑くなって・・・」、「雨が
続きますねえ・・・。」季節の変化は、
年々、なかなか思うようにいかな
くなってはいないか。それに馴化しな
がら人は生きている。植物は、それ
を正しく繰り返して、ゆつくりと花
をつけている。

はで 派手 ～常識を破るかっこよさ～

三味線では、本来の弾き方のことを本手、
それを打ち破った、細かくにぎやかな弾
き方を破手^{はで}というそうです。

やはり、常識を打ち破ったところにか
っこよさが生まれるものなのでしょう。

常識破りの、華やかで目立つことも、
みんなが真似するといつしか常識にな
ります。

そして、また、新しい破手が生み出
され、いろいろな破手に分かれていっ
たのでしょう。

いつのまにか分かれるという意味も
つた「派」という漢字が当てられて、
派手と書くようになりました。

人は、華やかなもの、目立つものに
憧れるものです。それは、心の中に、
何かを打ち破りたいという欲求が、
ひそんでいからなのでしょう。

(山下景子「美人の日本語」より)

主催事業 5月18日

「ハーブ活用術①」

上級ハーブインストラクターの資格
をお持ちの

石原富子先生に講師をお願いし、
3回シリーズの1回目が開催され
ました。

今回は参加者の皆さんには、好
みにより、ひとり4株のハーブ苗
が配布され、それぞれのハーブ
の栽培の仕方やハーブの育て
方の説明がありました。また、



【正面玄関のガザニア】

令和4年度 第4号
令和4年5月23日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿 2-16-14
電話 043-243-4343

すでにハーブを育てている方からは、
質問も多くあり、ハーブを楽しんで
いる様子がうかがえました。石原先
生の優しい語り口や丁寧な回答が
とても印象に残りました。

最後にはハーブティーをいただき
ました。摘んだばかりの「フレッシュ
ハーブ」を熱湯に入れて3分ほど。
レモングラスなどから淡い緑色が染



み出て、ホワ～としたいい香りが
立ち込めます。飲んだ後に鼻から
スーッと抜ける香りがなんとも言
えません。私などは、体が浄化さ
れる気分になりました。

持ち帰ったハーブの苗は、きっと
今頃は移植され、素敵なハーブ
ガーデンが出来上がっていくので
しょう。皆さん大満足の講座とな
っています。

アンケートの一部をご紹介します。

・先生の説明が丁寧で、穏やかな
雰囲気が良かったです。・ハーブ
の育て方について直接聞けたので
詳細が分かってよかったです。ネ
ットで見る内容より広い範囲を知
ることができました。・フレッシュ
ハーブティーは見た目もきれいで
香りよく、おいしく、癒されました。
ハーブを今まで以上に身近に感
じることができました。・ハーブ
のお持ち帰りやハーブティーも
いただけ、驚きとうれしさでいっ
ぱいです。お茶を飲んで気持ち
がホット暖かく豊かになりました。
・いつも先生に癒されています。
・4種類のハーブを受け取り、い
い香りに包まれ満足しました。
・ハーブの知識も得ることができ
ましたし、家に帰ってハーブを
育てることもできて楽しみです。
ハーブの苗4本に、きちんとした
テキスト付きで感激です。ハーブ
ティーまでいただいてデラックス
な講座に大満足です。・日常に
活用できそうなものを配布して
いただいて育ててみようと思いま
す。家の中のハーブの手入れに
参考にさせていただきます。第
2回、3回も楽しみにしています。

クラブ連絡会総会

6月4日(土) 10時から、3階講
堂で開催されます。各団体1名
の参加をお願いします。

花の苗が届きました

千葉市緑政課、花と緑の推進室からマリーゴールド、日々草、ペチュニアを80株ほどが配布されました。毎年春と秋にいただいて



定植します。春先には、パンジー、ビオラがかわいらしく咲いてくれたので、引き抜くときはかわいそうな気持ちにもなりました。日々草はこれから花芽がでてくるのが楽しみです。花柄を摘んだり、病気や虫にやられたりしないように気をかけながら育てていきたいと思います。何気ないことですが、少しでも花々から癒されたいものです。

花のある公民館がいいですね。

携帯電話・・・

電車通勤すると、座っている人の9割はスマホを見ている時代になりました。「スマホ」は smartphone=電話だったはずですが、携帯電話として使っている人は少ないでしょう。もちろん電車内で通話している人はいません。メールをしたりLINEを交換したり、ゲームしている人も。音楽を聴いたりスマホの中で本を読んだり、電車の乗り換えや時刻表を調べたり、チケットの予約をしたり、最近では口座のお金を動かすことができちゃったりします。一台でいろんな欲求に反応してくれます。(私はほとんどの機能を使いこなせていませんが。)若い人たち(どこからが若いのかな?)は、生まれた時から大変便利な機能を持った道具があるという社会にいますので、遠く離れた人と話をするのできる電話のありがたさは、あまりわからないのではないかと思います。10円玉を何枚も握りしめ、公衆電話が空くのを待って、受話器を上げ、矢継ぎ早に硬貨を流し込みながら、「仕送りお願い・・・」と早口で親に連絡した身からすると、便利すぎるほどです。

しかし、携帯電話としては、やはりその便利さは今や欠かせません。

先日介護施設の母が、けがの経過観察というので病院に診察に出かけた折、付き添ってくれている兄から電話がありました。「お母さんと話さね。」私は、兄が電話をかけてくる大体の時間は知らされていたので待ち構えていたのです。「忙しかとやろ。元気にしとるね。としみさん(妻)によるしゆうゆうとって・・・。」いつまでも心配してく



れる声が続きました。「よかよか、心配せんで。夏に帰ったら会えればよかね・・・。」約3年にも及ぶコロナ禍の中、会いに行くこともままなりません。テレビ電話で話すこともできたのですが、不慣れな母は戸惑うと思いやめました。受話器よりずっと小さく、どこから聞こえるのかよくわからないスマホを握りしめながら会話していた母の姿を、私は思い浮かべていました。

様々な事情を抱えて生活する人に、こんな便利な道具=携帯電話は、やっぱり有難いのです。私も、携帯電話の有難さを身にしみて感じている一人です。(新宿公民館 館長 迎 浩二)

季節の日本語

どうだんつつじ 満天星 ~空から降ってきた花~

夜空いつぱいの星を満点の星といいます。植物の満天星というと、つつじの一種のことです。

なぜ、「どうだん」と呼ばれるかということ、枝ぶりが、昔、家庭で使っていた「灯台」と呼ばれる灯明台とうみょうだいに似ているところから。「とうだい」→「どうだん」に変化したということです。

また、中国語でつつじをさす Du juan の音が「ドウダン」に似ているからという説もあります。

中国の太上老君たいじょうろうくん(老子)が誤って天から霊水をこぼし、この木にかかって、壺状に固まり、満天の星のように輝いたという伝説の木です。

鈴蘭のような白い花がいつぱいに咲いて、まさに空から降ってきた小さな星。太陽の光にさえ、きらきら輝いて、本当に天からの贈り物のようです。

(山下景子「美人の日本語」より)

【ちょっとブレイク】

□に入る漢字は何？

来
↓
歡→□→擊
↓
合

(答えは、この紙面の中に)

紫陽花を 梅雨も間近と 急かす雨
よく降るなあ・・・

マツバギク 曇天向けて 灯ひを放つ